

## ガザミ種苗の放流効果調査

ワタリガニとも呼ばれるガザミは、県が令和3年度に行った「おかやま旬の魚総選挙」で秋の推し魚に選ばれるなど、岡山県民に親しまれる重要な水産物の一つですが、近年、その漁獲量は減少しています(図1)。ガザミの資源量を回復させるため、岡山県では小型個体(甲幅15cm未満)の採捕禁止や抱卵ガザミの再放流等の資源管理の取組に加えて、水産研究所で種苗生産を実施し、中間育成を経て県内地先に放流しています。

現在、放流効果の向上を目的に、(公社)豊かな海づくり推進協会、広島県、香川県及び愛媛県と共同で放流種苗の追跡調査を実施しています。今回は、岡山県の寄島増殖場から放流したC3(3齢稚ガニ:甲幅約10mm)種苗に関する調査結果について紹介します。

令和3～5年度に寄島増殖場で中間育成後、放流されたC3種苗の親ガザミと、4県

で漁獲された当歳ガザミについて、DNA親子判別技術を用いて漁獲物に占める放流種苗の割合(混入率)を調査しました。岡山県西部海域における混入率は令和3、4年度においては1%未満でしたが、令和5年度の調査では22.4%と高い結果が得られました(表1)。年度毎に放流尾数や調査時期に違いはあるものの、いずれの年も放流種苗が再捕されており、種苗放流による資源添加の効果があることが示唆されました。

また、寄島増殖場から離れた広島県東部や香川県西部海域でも放流ガザミが見つかり、広域を移動することも確認されました。今後も近隣県と連携を図りながら、資源回復の取組を継続していくことが重要と考えています。

(栽培・資源研究室 仲村)

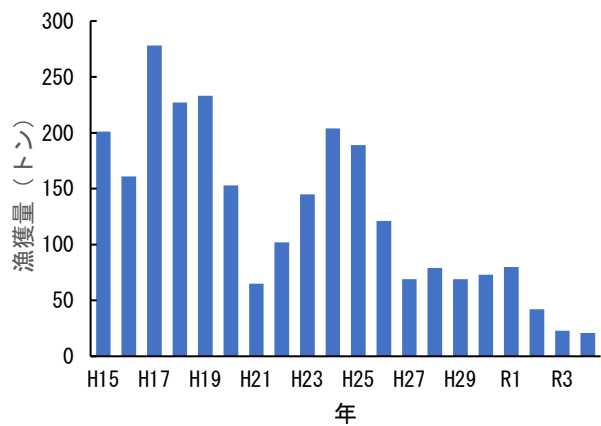


図1 岡山県におけるガザミ漁獲量の推移

※出典：海面漁業生産統計調査（農林水産省）



写真1 ガザミ放流種苗(C3:甲幅約10mm)

表1 寄島増殖場から放流されたガザミの混入率

年度	放流尾数 (万尾)	海域毎の混入率（再捕尾数/調査尾数）				
		岡山県西部	広島県東部	香川県西部	愛媛県東部	合計
R3	37.0	0.9% (2/231)	1.3% (3/236)	0% (0/35)	0% (0/138)	0.8% (5/640)
R4	93.3	0.5% (1/216)	7.7% (27/350)	4.1% (2/49)	0% (0/189)	3.6% (29/804)
R5	140.9	22.4% (30/134)	2.2% (3/137)	4.0% (1/25)	0% (0/107)	8.4% (34/403)